

朝来市のごみ処理状況（平成18年度）

■ 2トントラックで



約6千800台分

■ 1人当たりのごみの排出量／1日

※人口：H19.3末 35,216人



約1千100g



■ ごみ処理にかかる費用



年間
約3億2千万円

ごみ処理に1日
約87万7千円かかっています。



約87万7千円／日



1人当たりの処理経費／年間

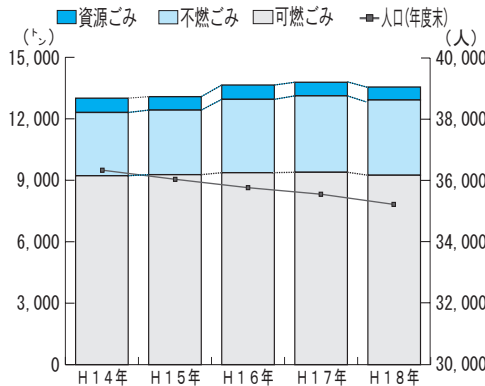


約9千円

■ ごみの量（ト・トン）

	平成18年度	割合
可燃ごみ	9,246	68.2
不燃ごみ	3,673	27.1
資源ごみ	632	4.7
合計	13,551	100.0

■ ごみの量と人口の推移



	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
ごみ総排出量(ト)	13,007	13,081	13,649	13,784	13,551
人口(各年度末)	36,334	36,036	35,762	35,549	35,216

わたしたちの生活からは、毎日たくさんのごみが出ています。

平成18年度のごみの量

朝来市のごみ事情

現在、市では、燃えるごみ（可燃ごみ）、燃えないごみ（不燃ごみ）（乾電池は別に分別）、資源ごみ（空き缶、空きびん（無色透明、茶色、その他の色に分別）、ペットボトル、

白色トレイ）を分別収集しています。平成18年度に排出されたごみの内訳は左上の表のとおりです。

可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみのここ数年の排出量は、資源ごみの分別やごみ減量化の取り組みもあって、横ばい状態ですが、人口が減少していることを考えると、一人当たりのごみの排出量は増えていると言えます。

ここで、全体の68割に当たる可燃ごみを見てみましょう。平成18年度の市の可燃ごみの総量は9千2百46トで、一人当たりになると、1年間に約2百63kg、袋

数（指定袋(大)約10kg)にすると約27袋もの可燃ごみを出していることになりました。

また、8千400トだった昭和60年度と比較すると1千100ト以上排出量が増加しています。

ごみの排出量が増えた原因として、大きくはわたしたちを取り巻く生活環境の変化があげられますが、最近では、家庭でごみが燃やせなくなったことなどもごみの量の増加の一因と考えられます。

これ以上ごみを「増やさない」「減らす」ことを考えなければなりません。

ごみもリサイクルで資源に

減量化の取り組み

- ・市では、ごみの減量化に向けて、7種9分別の収集
- ・生ごみ処理機購入費の補助
- ・「ごみの分け方・出し方」を配布し、分別を徹底
- ・学校給食生ごみなどの資源化（一部で未実施）
- ・組織としての環境問題への取り組みとして、市役所は平成17年度にISO14001の認証を取得
- ・市内の家庭等から排出される資源ごみの集団回収事業を行う団体への助成

などに取り組んできました。しかし、行政だけでは、ごみの減量化はできません。皆さん一人ひとりが意識をして、朝来市の良好な環境を次世代に引き継いでいきましょう。

ごみを減らすために

ごみを減らすためには、ごみの分別を徹底し、可燃ごみ・不燃ごみの中から資源ごみをなくすことです。市内では、平成5年度からあき缶、平成12年度からあきびん、平成13年度からペットボトル、平成16年度から白色トレイと、順次分別収集が進められてきました。また、紙パックやダンボールは、スー